

文部科学省委託事業

博物館の望ましい姿シリーズ 7

誰にもやさしい博物館づくり事業 バリアフリー

平成 18 年 3 月
財団法人 日本博物館協会

はじめに

日本博物館協会では、文部科学省の委託を受けて、高齢者、障害者さらには外国人を含め、博物館を全ての人にとって利用し易く快適な施設とするための「誰にもやさしい博物館づくり事業」に関する調査研究を平成16年度からすすめている。

このため、本協会に、高齢者対応、外国人対応、障害者のためのバリアフリーの3委員会を設け、それぞれの対応すべき者の観点から検討を行っている。

バリアフリーの委員会においては、平成16年度に行ったアンケート調査「博物館における障害者調査」を土台として、障害者に加え、高齢者や子どもなど様々な人の利用を想定した、博物館におけるバリアフリーを推進するためのチェックリストを作成した。そして、このチェックリストの項目ごとに、上記調査の結果から得られた対応状況を統計数値や実例で示し、点検が容易になるようにした。

さらに、チェックリストの項目にある程度対応できるよう、代表的な博物館に依頼して、実践例を執筆していただいた。

本調査研究に当たり、チェックリスト項目の構成、内容の検討、項目に応じた実践例の選定、依頼、取りまとめなど、本報告書の作成にご尽力を賜ったバリアフリー委員会（主査 中川志郎 ミュージアムパーク茨城県自然博物館名誉館長）の委員の皆様、特にチェックリスト作成に格別のご尽力をいただいた筑波大学心身障害学系鳥山由子教授及び研究室の皆様、また、バリアフリーの優れた実践例をお忙しい中ご執筆いただいた各館の館員の皆様に心からお礼申し上げます。

最後であるが、本調査研究にご支援・ご指導をいただいた文部科学省生涯学習政策局社会教育課の皆様、また、本報告書が広く活用され、わが国博物館におけるバリアフリーの推進に寄与できることを期待するものである。

平成18年3月

財団法人日本博物館協会

委員名簿

誰にもやさしい博物館づくり事業・バリアフリー委員会委員

中川志郎（主査）	ミュージアムパーク茨城県自然博物館名誉館長
鳥山由子	筑波大学人間総合科学研究科教授
米田耕司	千葉県立美術館長
大原一興	横浜国立大学大学院工学研究院システムの創生部門助教授
奥野花代子	神奈川県立生命の星・地球博物館専門学芸員
藤本裕人	独立行政法人国立特殊教育総合研究所企画部総括主任研究官
作原圭介	神奈川県地域保健福祉課地域保健福祉班副主幹
五十嵐耕一	(財)日本博物館協会専務理事

目次

はじめに	・・・・・・・・ 1
委員名簿	・・・・・・・・ 2
1 誰にもやさしい博物館チェックリスト	・・・・・・・・ 5
2 誰にもやさしい博物館チェックリスト ー利用の手引きー	・・・・・・・・ 8
3 事例紹介	・・・・・・・・ 15

誰にもやさしい博物館チェックリストと利用の手引き

目的

日本博物館協会では平成 16(2004)年度に「博物館における障害者対応調査」を実施しました。その際、アンケート用紙を送付した 1,156 館中、873 館から回答があり（回収率 約 76%）、全国の博物館の関心の高さが反映された結果になりました。

その際、回答の自由記入欄に、「アンケートに回答することを通じて、今後どのような配慮を進めれば良いかがわかった」「まだ達成されていない項目が多いことに気づいた」など、アンケート調査によってバリアフリーの内容に示唆を得られたという意見が多く見られました。

そこで、平成 17(2005)年度は、各館においてバリアフリーを推進する指針として、「誰にもやさしい博物館チェックリスト」を作成しました。作成に当たっては、「博物館における障害者対応調査」を土台とし、聴覚障害者への配慮事項など、前回の調査で欠けていた項目を加え、さらに高齢者や子どもなど、さまざまな人の利用を想定した内容にしました。また、イギリス、アメリカなどの博物館から資料を取り寄せ、参考にしました。

このチェックリストは、「誰にもやさしい博物館」を目指すための各館の自己評価を目的としています。内容は、「館・園へのアクセス」「展示」「教育・普及活動」「館内設備」「研修」「広報」の 6 項目あり、それぞれに下位項目があります。それぞれの項目について、貴館の取り組みをご検討いただき、「達成されている」、あるいは「既存の設備やサービスで代替できている」と思われる場合にはチェックマークをつけて、現状と課題を明らかにし、今後の取り組みにご活用ください。

なお、定期的に繰り返しチェックすることができるよう、チェックリストはコピーしてお使い頂けるようにしてあり、記入年月日、記入者名の欄が設けてあります。

1 誰にもやさしい博物館チェックリスト

達成されているもの、もしくは既存の設備やサービスで代用できる場合☑を付けて下さい

貴館名：

記入年月日：

記入者名：

1 館・園へのアクセス	1-1. 公共交通機関からのアクセス <input type="checkbox"/> 駅・バス停からの案内表示がある <input type="checkbox"/> 駅・バス停からの誘導ブロックなどがある <input type="checkbox"/> 駅・バス停から車いすで来ることができる <input type="checkbox"/> 依頼に応じて駅・バス停からの送迎を行なっている
	1-2. 自動車による来館者のアクセス <input type="checkbox"/> 福祉車両駐車場がある <input type="checkbox"/> 福祉車両駐車場に屋根がある <input type="checkbox"/> 駐車場から車いすで移動できる（段差の解消・スロープなど）
	1-3. 館の入口から受付までのアクセス <input type="checkbox"/> 入口の表示はわかりやすい（見やすい） <input type="checkbox"/> 入口に音によるサインがある <input type="checkbox"/> 受付から入口（来館者）が見える
	1-4. 受付のインフォメーション機能 <input type="checkbox"/> 受付で館の全体的情報を提供している <input type="checkbox"/> 受付で来館者支援の情報を提供している <input type="checkbox"/> 受付は来館者の相談に応じている <input type="checkbox"/> 受付は障害者や高齢者に対してスタッフの側から声をかけるようにしている
2 展示	2-1. 視覚以外の感覚で鑑賞・観察できる展示 <input type="checkbox"/> 事前の申し込みにもとづき対応している <input type="checkbox"/> ハンズ・オン コーナーがある <input type="checkbox"/> さわれる展示のある特別展を実施している <input type="checkbox"/> 常設展にアクセス可能な展示がある
	2-2. キャプションと照明 <input type="checkbox"/> キャプションの文字の色や大きさは見やすい <input type="checkbox"/> キャプションの位置は子どもや車いすからも見やすい <input type="checkbox"/> キャプションの漢字にルビがついている <input type="checkbox"/> 照明は十分に明るく、かつ、まぶしくない
	2-3. 展示の位置 <input type="checkbox"/> 車いすからの目線や子どもの背丈に対応している <input type="checkbox"/> 車いすで展示に近づくことができる
	2-4. 音の出る展示やビデオや映像による展示 <input type="checkbox"/> 映像画面の音声について、字幕または手話がついている（聴覚障害者等への対応） <input type="checkbox"/> 音の出る展示に文字の説明がある（聴覚障害者等への対応） <input type="checkbox"/> 映像に音声解説がついている（視覚障害者等への対応）

3 教育・普及活動	3-1. 学芸員やボランティアによる展示の解説（全ての人に対する鑑賞支援） <input type="checkbox"/> 学芸員による解説などの教育・普及活動をしている <input type="checkbox"/> ボランティアによる案内や解説をしている <input type="checkbox"/> 講演会・ギャラリートークなどに誰もが参加できるような配慮をしている
	3-2. 視覚障害者の鑑賞支援 <input type="checkbox"/> 展示場での誘導をしている <input type="checkbox"/> 展示のキャプションや解説の読み上げをしている <input type="checkbox"/> 観察中、展示品を支えたり、触る場所の指示などの手助けをしている <input type="checkbox"/> 両手を使えるよう、白杖を持つなどの支援をしている <input type="checkbox"/> 音声ガイドを用意している <input type="checkbox"/> 拡大文字パンフレットを用意している <input type="checkbox"/> 点字パンフレットを用意している
	3-3. 聴覚障害者の鑑賞・観察支援 <input type="checkbox"/> 事前申し込みにもとづき、鑑賞・観察前のオリエンテーションや解説を実施している <input type="checkbox"/> 筆談や手話による解説ができるスタッフがいる <input type="checkbox"/> 展示場にはノイズ音を少なくする配慮がされている
4 館内設備	4-1. 貸し出し用の車いすやベビーカー <input type="checkbox"/> 貸し出し用の車いすやベビーカーが常備されている <input type="checkbox"/> その操作法をスタッフが知っている <input type="checkbox"/> 貸し出し用の車いすやベビーカーの安全点検をしている
	4-2. 危険な柱やドア（例：通路上の柱、透明ガラスのパーテーションやドア、廊下に直角に出ているドアなど） <input type="checkbox"/> 衝突の危険のある柱やドアはない <input type="checkbox"/> 危険な柱やドアにはぶつかっても危険がないよう臨時の対応をしている
	4-3. 階段・エレベーター・エスカレーター <input type="checkbox"/> 階段や段差、エスカレーターの始まる場所に注意ブロックがある <input type="checkbox"/> 階段や段差、エスカレーターの端はわかりやすい色になっている <input type="checkbox"/> エレベーターが車いすに対応している <input type="checkbox"/> エレベーターに階を知らせる音声ガイドがある
	4-4. トイレ・洗面所 <input type="checkbox"/> トイレの場所・入口・男女別のマークがわかりやすい <input type="checkbox"/> 車いすに対応したトイレがある <input type="checkbox"/> オストメイト（人工肛門保有者）に対応したトイレがある <input type="checkbox"/> 水洗装置は視覚障害者にわかるようになっている <input type="checkbox"/> 洗面台は車いすに対応している
	4-5. 非常通報装置 <input type="checkbox"/> 非常呼出装置の定期的な自己点検をしている <input type="checkbox"/> トイレ内に非常事態を知らせる点灯表示等がある <input type="checkbox"/> トイレ内に非常呼出用のボタンがある <input type="checkbox"/> トイレ内の非常呼出ボタンには点字表示がついている <input type="checkbox"/> 聴覚障害者のために通報を知らせる電光掲示板などがある
	4-6. 休憩設備 <input type="checkbox"/> 展示室内に椅子やベンチなどがある <input type="checkbox"/> 横になって休むために使える部屋がある <input type="checkbox"/> 授乳やおむつ替えに使える部屋がある

5 研 修	<p>5-1. 職員やボランティアへの研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 車いすの扱い方を研修している <input type="checkbox"/> 視覚障害者の誘導方法を研修している <input type="checkbox"/> 聴覚障害者とのコミュニケーションのとり方を研修している <input type="checkbox"/> 非常通報装置の位置や使い方を研修している <input type="checkbox"/> 高齢者や障害者の理解に関する全般的な研修をしている <input type="checkbox"/> 外部の研修会に参加させている
	<p>5-2. 委託業務（レストランや売店など）のスタッフへの研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 車いすの扱い方を研修している <input type="checkbox"/> 視覚障害者の誘導方法を研修している <input type="checkbox"/> 聴覚障害者とのコミュニケーションのとり方を研修している <input type="checkbox"/> 非常通報装置の位置や使い方を研修している <input type="checkbox"/> 高齢者や障害者の理解に関する全般的な研修をしている
	<p>5-3. 専門家や当事者との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 専門家のアドバイスを受けている <input type="checkbox"/> 障害者や高齢者など、当事者との話し合いの機会を設けている <input type="checkbox"/> 計画段階で当事者や専門家に相談している
6 広 報	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ホームページで高齢者や障害者への支援情報を提供している <input type="checkbox"/> ホームページは視覚障害者へのW e bアクセシビリティに配慮している (文字データのみで主要な情報を閲覧できる) <input type="checkbox"/> 電話での問い合わせに対応している <input type="checkbox"/> F A Xでの問い合わせに対応している <input type="checkbox"/> Eメールでの問い合わせに対応している

2 誰にもやさしい博物館チェックリスト ー利用の手引きー

1-1 公共交通期間からのアクセス

送迎について平成 16(2004)年度の調査では、161 館(18.4%)が、事前に連絡のあった視覚障害者や車いすの人などを最寄の駅やバス停に迎えに行くと呼び返しています。視覚障害者が初めての駅に一人で来る場合にはホームまで迎えに行くこともあります。

1-2 自動車による来館者のアクセス

2004 年度の調査結果では、福祉車両駐車場を設置している館は 641 館(73%)ありました。しかし、屋根があるのは 98 館(11%)でした。雨天時に自動車から車いすに移動するときに屋根がないと、人も車いすも濡れてしまいます。濡れた車いすにずっと座ることは苦痛です。

1-3 館の入口から受付までのアクセス

館の入口が見える位置に受付があり、目の不自由な人などには、受付から声をかけるとその方向がわかりやすく助かります。また玄関から点字ブロックで受付まで誘導することも有効です。



※点字ブロックには線パターンで進む方向を示す誘導ブロックと、駅のプラットフォームの端などに見かけるような点による警告ブロックがあります。点字ブロックの形状については 2001 年(平成 13 年)に制定された JIS 規格(JIS T9251 2001 年 9 月 20 日制定)があります。

受付の位置まで誘導している点字ブロック

1-4 受付のインフォメーション機能

受付のインフォメーション機能とは、来館者に必要な情報を提供し、相談を受けることができる機能を指します。せっかく、様々な支援をしても、来館者にその支援の内容や申し込み方法が伝わらなくては、利用しにくいものになります。また、受付では、視覚障害者にはスタッフの側から声をかけ、聴覚障害者には筆談に応じるなどのサービスが必要です。

(次ページに写真あり)



筆談可能の表示の例（筆談可能マーク）



わかりやすい情報提供の例 1



わかりやすい情報提供の例 2

2-1 視覚以外の感覚で鑑賞・観察できる展示



触れて鑑賞できる彫刻展



大きさがわかる原寸大の模型(右下)
と細部がわかる拡大模型の展示

2-2 キャプションと照明

キャプションの地の色と文字の色のコントラストが低かったり、文字が小さいと、高齢者や弱視者には見えづらいものです。また、色覚に異常がある人もいますので、明度差をつけるなどの工夫も必要です。弱視者や高齢者は明るいところから暗いところ、またはその逆の順応がうまくいきません。たとえば、作品に強いスポットライトが当たっていると、それがまぶしくてキャプションが読めない場合があります。

2-3 展示の位置

車いすで展示に近づくときには、車いすの向きを変えるスペースと、展示台の下に車いすの一部が入るスペースが必要です。

2-4 音の出る展示やビデオや映像による展示



映像の一部に手話がついている例

3-1 学芸員やボランティアによる展示の解説（全ての人に対する鑑賞支援）

平成 16(2004)年度の調査では一般来館者に展示の解説をしている館は 553 館 (63%)でした。しかし、視覚障害者が展示物を観察・鑑賞するための支援を行っていると感じた館は 187 館 (21%)でした。このことから、視覚障害者にどのような支援を行うかが想像しにくいと考えられましたので 3-2 には具体的な支援項目を挙げてあります。

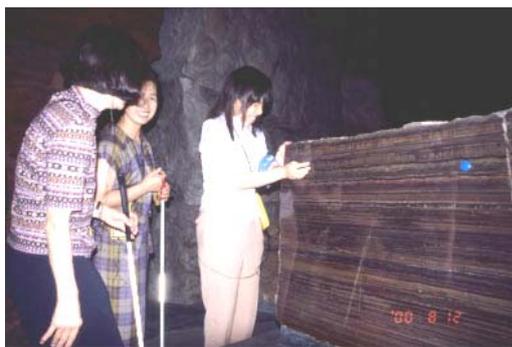


子どもに解説をしている例

3-2 視覚障害者の鑑賞支援



触る位置を指示している例



観察の際に白杖を預かる例

3-3 聴覚障害者の鑑賞・観察支援

聴覚に障害のある人には、鑑賞前に映像などによるオリエンテーションや解説をすることが効果的であると言われています。また、補聴器を使っている人も多いので、できるだけノイズ音を少なくするように床にカーペットを敷くことなどが有効であるとされています。

4-1 貸し出し用の車いすやベビーカー



保管中の貸し出し用車いす



貸し出し用ベビーカー

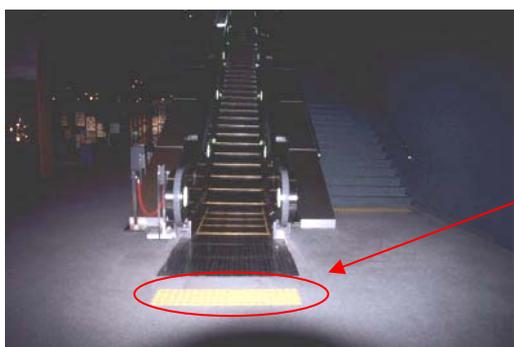
4-2 危険箇所の表示例

子どもがガラスに走ってぶつかる事故をさけるために、子どもの目線に合わせてテープを貼ったり、模様をつけることが必要です。通路に柱があったり、ぶつかる危険のあるドアには緩衝材を巻くなどの対応も必要です。



子どもの目線に貼ってある模様

4-3 階段・エレベーター・エスカレーター



ここに点字ブロックがあります

点字ブロックのついたエスカレーター

4-4 視覚障害者にわかりやすい水洗装置

点字の付いた水洗装置



ここに点字が貼ってあります

わかりやすい水洗装置

大きな文字の表示



首都圏新都市鉄道株式会社 提供

4-5 非常通報装置の点字

点字の付いた非常呼び出しボタン



首都圏新都市鉄道株式会社 提供

4-6 休憩設備

平成 16(2004)年度の調査では休憩室を設置している館は 288 館(33%)でした。車いすの人の中には時々横になって休む必要がある人がいます。これらの部屋は授乳室などと兼用の多目的な部屋として整備することが多いようです。



休憩室と授乳室を兼ねた部屋

5-1 職員やボランティアへの研修

平成 16(2004)年度の調査では、博物館のバリアフリー意識を育てるための取り組みを実施している館は 344 館(39%)でした。中でも、障害者の支援に関わる研修を実施している館はわずか 20 館(2.3%)で、他の項目にくらべて非常に少ない結果でした。

5-2 委託業務（レストランや売店など）のスタッフへの研修

職員やボランティアへの研修を充実させるとともに、来館者に接する機会の多い受付やレストラン等で働く委託業務のスタッフへの研修の機会を提供することも大切です。



エスコートの練習をしている

5-3 専門家や当事者との連携

障害者や高齢者をはじめとするさまざまな人々のニーズを知るためには

高齢者や障害者などへの対応を考えるにあたり、当事者や専門家の意見を聞く機会を設けることは大切です。計画が進んでから相談をした場合、柔軟な対応が難しくなることがあります。計画段階から専門家や当事者に相談することが、誰にもやさしい博物館の実現につながります。

6 広報

障害者の中にはホームページを活用している人が多くいます。障害者がアクセス可能なホームページを作成するにあたり、参考となる指針としては以下のようなものがあります。

<総務省 みんなの公共サイト運用モデル>

http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/w_access/index.html

<富士通 ウェブ・アクセシビリティ指針>

http://jp.fujitsu.com/webaccessibility/?105_03b

<IBM Web アクセシビリティ(日本語訳)>

http://www-06.ibm.com/jp/accessibility/guideline/accessweb.html#main

聴覚障害者は電話のかわりに Fax を活用している人が多いので、Fax での問い合わせもあります。これに対して視覚障害者からは Fax ではなく電話での問い合わせになります。また、障害の種類を問わず、Eメールを活用する障害者も増えてきており、若い人の多くは頻繁に活用しています。